

川口駅周辺まちづくりビジョンに関連する事業について

住民参加のまちづくりの実現を

9月市議会で板橋ひろみ議員が一般質問を行いました。
質問の一部を紹介します。

川口市の2025年度予算は、一般会計約2737億円で過去最大の予算規模となりましたが、市民の福祉や暮らしに身近な予算が廃止・縮小される予算編成となりました。その一方で、総事業費約500億円の大型道路事業を続け、約50億円もの公的資金が投入される民間主導の再開発事業も継続しました。その上、新たに「川口駅周辺再整備基金条例」を設置し、2025年度末には20億円もの多額の税金が積み増しされました。

また、今年度の当初予算では、「川口駅上野東京ラインホーム及び自由通路等整備に係る基本設計業務並びに基本設計に伴う検証業務」として、令和8年度から令和10年度までの債務負担行為8億4798万2千円などが計上され、今議会の追加補正を加えれば約10億円の事業費がとなり、川口駅周辺の整備事業は今後も膨れ上がることが想定されます。

わが党市議団は、民間主導の大型開発に多額の税金を投入すべきではなく、市民の暮らし最優先に使うことを求めています。

① J R 東日本との協議内容について

【問】今議会には「川口駅西口施設改修に伴う基本設計及び土壌概況調査業務」の追加補正が提案されたが、J R 東日本とはどのような協議が行われたか。

【答】令和8年7月にJ R 東日本と基本設計協定を締結し、J R 東日本が設置するホームや駅舎・自由通路などの基本設計を令和10年度まで行う予定になっている。J R 東日本との協議では、鉄道工事の実施により影響が想定される公共施設の改修については、その費用を含め本市で実施することとなっており、J R 東日本と連携しつつ進める。

※日本共産党市議団は、本来利用者の利便性や安全性向上のため、中距離電車の停車は必要と考えますが、中距離電車を停め、駅やホームなどの整備するのはJ R 東日本が負担するべきとの考えです。

② 川口西公園についてのワークショップの実施について

【問】川口駅周辺まちづくりビジョンでは、希少な駅前大規模公園であること、多様な活動を誘発する仕掛けが不足しているとしているが、公園の今後について、PFIなどで検討するのではなく、川口西公園を市民がどんな公園にしていけるのか、何を望んでいるのかなど、市民参加のまちづくりが実現できるようワークショップの実施を求めた。

【答】今後は、川口駅周辺まちづくりビジョンのコンセプトに基づき、川口西公園の機能を最大限発揮するため、ワークショップの実施も含め、市民の皆様や専門家など様々な方からの意見を聞く機会の創出に努めてまいりたい。

【意見】川口西公園は、水や緑があり自然豊かな貴重な本市の都市公園である。樹木や緑地の保全など市民や専門家などと共に検討の場が設けられ、公園を利用する市民の願いから出発するよう主張した。

③ 住民本位のまちづくりを

【問】川口駅周辺まちづくりビジョンでは、川口駅周辺の更なる再開発による高層ビルが立ち並ぶことが想定される。再開発の施行者は、行政から特別な地位が与えられる。この間、地権者の合意のない再開発が進められた結果、川口市を離れていく方、空中の権利は市民のものでありながらほとんど知らされない等、不利益を受けた地域住民がいる。

今後の再開発事業において市民参加での学習・提案・検討する場をつくり、地域住民とともにまちづくりを進めることを求めた。

【答】事業への理解を得るのは、関係権利者のご理解・ご協力はもとより、市民の皆様への説明も重要であると認識している。今後も、一人ひとりのご意見を丁寧に伺いながら再開発事業を進めてまいりたい。

2026年9月20日

No.1853



日本共産党川口市議会議員団

川口市前川 2-28-10

TEL.267-8411 FAX.261-3528

<https://www.kawaguchi-jcp.jp/>

金子ゆきひろ 松本さちえ 板橋ひろみ ふじしまともこ

関東大震災から103年、 未来のために生かそう

● 朝鮮人犠牲者追悼会に参加 ●

埼玉県内では、さいたま市見沼区染谷の常泉寺(9月4日)、寄居町の正樹院(9月6日)で市民の手で追悼会が行われています。

追悼会は、関東大震災時に殺害された姜大興(カンデフン)さんを追悼するとともに、何の罪もない一人の朝鮮人が大勢の自警団に追われた末、刀や槍で全身二十数カ所傷つけられ刺されて殺害されたという痛ましい事件の真相を語り継ぎ、不幸な過去の過ちを二度と繰り返さないために取り組まれてきました。

日朝協会埼玉県連合会と姜大興さんの想いを刻み、未来に生かす集い実行委員会が主催し9月4日、さいたま市見沼区の常泉寺で開かれた追悼会は今年で20回目となり、94人が参加しました。当日は、大野元裕県知事、清水勇人さいたま市長らがメッセージを寄せ、姜大興さんの遺族がビデオメッセージを寄せました。



追悼会では、追悼詩の朗読や、染谷出身の美術家の三枝愛さんからの自己紹介と事件をモチーフ



にした作品(写真添付:連行された朝鮮人の人々が歩き続けた50キロの道のりを35個の繭をつないで表現・繭一つで1500mの糸が取れる。)の紹介もありました。「常泉寺での朝鮮人犠牲者追悼会の歩みと課題」として、日朝協会埼玉県連の関原正弘氏からは「9月4日は追悼と学習と思考の日として続けたい。多くの若い世代は事件を知らされていない。また政府は事件に対して何も答えられないとの態度を決め込んでいる。再びこの虐殺を引き起こさないために、私たちは歴史の真相を調査し、再び、周囲の人々、とりわけ次世代の人に伝えなければならない。」との呼びかけがありました。

過密が続く川口特別支援学校 を視察しました

9月9日、日本共産党川口市議団は山崎すなお県議と共に、埼玉県立川口特別支援学校を訪問し、4月に開設された新校舎を含め学校の現状を視察してきました。

川口特別支援学校は昨年開校50年を迎え現在は小学部と中学部が設置されています。今年度入学の小学1年生は約70人と年々入学者が増加しており、約450人の児童生徒が在籍する全国的にも大きい学校です。

その結果、学校の過密化が大きな課題となっており埼玉県は敷地内に新たな校舎を増設し16教室増やしました。それでも過密化は解消されておらず現在更に1棟の校舎を増築する工事が始まっています。

視察に先立ち、学校の保護者や関係者からも話を聞き、過密化の現状は通常1クラス1教室のところを2クラス1教室を使用したり、音楽室などの特別教室はない、トイレの数が足りないことに対して「新校舎ができて現場の意見や実態が反映されていない、教室も教員も足りない中で、当たり前のことを当たり前でできる学校を」との切実な訴えが寄せられました。

保護者からは子どもも先生も溢れている中で活動場所が狭まり、教員不足も深刻で保護者が学校の様子を見る機会も減っている、児童数増加を原因に行事や教育活動が制限されることを危惧する声があります。

学校の過密化大規模化の解消には、川口市内に新たな特別支援学校を設置することが必要との声も大きく、日本共産党川口市議団も議会で繰り返し新校の設置について求めてきました。

一人一人を大切にする学校づくりを目指して学校現場の実態、子ども保護者の声に応える施策を進める必要があります。

